

自動車安全研究領域における研究の概要と方向性

自動車安全研究領域 谷口 哲夫

1. 研究の概要

自動車の車両に関する安全の研究は、大きく2つの概念で考えることができる。1つは、車両が衝突等の事故を起こすとして、その事故の被害を最小限に止めようとするパッシブセーフティ、いわゆる「被害軽減」に関する研究である。そしてもう1つは、それらの事故の発生を未然に防ぐためのアクティブセーフティ、いわゆる「予防安全」に関する研究である。

当研究領域においては、安全基準案の策定等、自動車の安全に係る技術行政の推進に資する研究を行うという本研究所の使命の下に、主に以下の4分野において研究を実施している。

[パッシブセーフティ]

○衝突安全分野

衝突時の乗員保護・歩行者保護の試験法・基準化
車椅子乗員の保護 等 (図1・2)

[アクティブセーフティ]

○運動性能分野

制動・操舵支援システムの評価法
運転支援システムにおけるドライバ特性の解析
等 (図3)

○情報・人間工学分野

認知支援システムの評価
視聴覚情報処理特性の解析 (含む高齢者対策)
新方式灯火器の性能評価 等

○電子技術分野

電子機器安全性の評価法
安全装置の故障診断の在り方 等

また、これらの分野の研究ポテンシャルを活かして、行政、主に国土交通省からの受託研究・調査を行っている。

現在実施している主な受託案件は

- ・衝突時の乗員保護、歩行者保護の基準拡充・策定のための調査
- ・大型車の被害軽減ブレーキに係る基準策定のための調査
- ・ブレーキアシストに係る基準策定のための調査
- ・事故分析と対策の効果評価を踏まえた車両安全対策のロードマップ策定調査
- ・燃料電池自動車に関する保安基準策定事業などであり、いずれも国土交通省における安全基準の作成・整備等に資するものである。



図1 車対車の側面衝突実験の状況



図2 歩行者脚部インパクト衝撃試験の状況



図3 出会い頭事故を想定した急制動実験

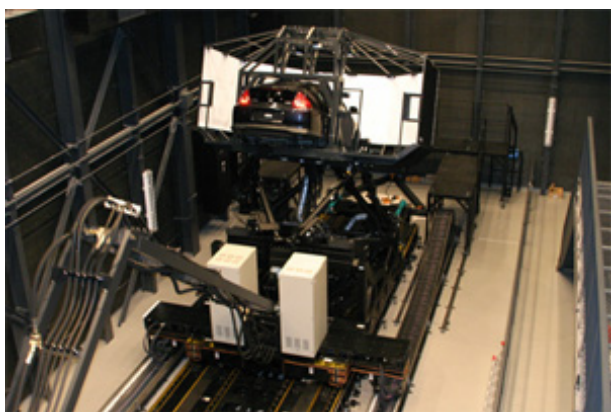


図4 並進機構付ドライビングシミュレータ

2. 今後新たに取り組む研究及び重点化する研究

自動車の安全に関する研究については、政府においても自動車交通における「人」「道」「車」の3つの要素について、その安全対策が検討されているところである。このうち、「車」、車両技術に関する対策としては、昨年の国土交通省交通政策審議会自動車交通部会の報告書によれば、これまで効果を上げてきたパッシブセーフティの対策に加えて、今後はアクティブセーフティの対策の普及・拡大に重点を置いて取り組むこととしている。また、そのためには、ASV技術の開発・普及が重要であることが指摘されている。

ASV技術については、被害軽減ブレーキ等の運転操作支援技術、通信を利用した運転支援システム等、先進的な安全技術の実用化・開発が進んでおり、今後の普及を考えると、これらのシステムの実使用時の効果を客観的に評価することが必要となってくる。

このような社会情勢や社会的ニーズの中で、当研究領域における今後の研究については、次の2つの方針を新たに加えて取り組むこととしている。

1つは、アクティブセーフティに関する研究に、より注力することであり、現在、アクティブセーフティ技術の評価に関する研究を重点化して進めているところである。昨年度より実施している「事故回避のための制動・操舵支援システムの評価法に関する研究」においては、ブレーキアシストシステム、スタビリティコントロールシステム等の効果評価、評価法等に関する検討を行うこととしている。また、昨年整備したDS（ドライビングシミュレータ：図4）もこれらの研究のためのデータ取得に大いに役立てることができると考えている。

もう1つは、自動車に対する各種の安全性向上策についての効果評価等を行うことを目的として、自動車交通における総合的な安全解析を行うものである。具体的には、車両、ドライバ、道路等をモデル化してシミュレーションを行うことにより、リアルワールドの事故発生を定量的に捉えようとするものであり、これにより、各種の安全性向上のための施策の実施、ITSやASVに関する技術の普及等による効果を定量的に評価するものである。

これらの他に、新たに取り組みに力を入れる研究としては、依然として減少しない車両不具合や構造的な欠陥による事故について、その技術的原因の検証および検討を行うものであり、自動車の設計・製造に関する技術が成熟しているにもかかわらず、構造・強度、信頼性といった基本的な部分での問題が発生する現状について調査及び解析を行う計画である。

以上の主なものについての具体的なテーマを以下に示す。

- ・ASV技術の評価・アクティブセーフティ技術の評価
- ・交通事故発生シミュレーションによる自動車交通流の総合安全解析
- ・電子機器の安全性・信頼性評価、故障診断
- ・車両不具合情報等からの安全性解析

3. 最後に

以上、当研究領域の現在の研究への取り組み状況と今後の研究の方向性について概説した。自動車の安全に関する研究は、学問的にも技術的にも非常に広範囲にわたっているが、これらの成果を元に今後さらに自動車事故を低減させていくことが求められており、私どもの研究領域においても、リソースをより重点化、有効活用してこれに取り組んでいく所存である。